

January 25, 2021

【前日の為替概況】ドル円、リスクオフ地合いで 103.89 円まで上昇

22日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は103.78円と前営業日NY終値(103.50円)と比べて28銭程度のドル高水準だった。欧州株相場や時間外のダウ先物、コモディティ価格などの下落を背景に、リスク・オフのドル買いが先行。103.80円超えに観測されていたストップロスの買いを誘発すると、23時過ぎに一時103.89円と日通し高値を更新した。ただ、103.88円近辺に位置する一目均衡表雲の下限が意識されると上昇は一服した。一時は260ドル超下落したダウ平均が70ドル安程度まで下げ幅を縮めたこともリスク・オフの動きを後退させた。NY午後に入ると、週末を控えたポジション調整の動きに終始したため、103円台後半で値動きが細った。

1月米製造業・サービス部門購買担当者景気指数(PMI)速報値や12月米中古住宅販売件数は予想を上回ったものの、相場の反応は限られた。

ユーロドルは小幅ながら続伸。終値は1.2171ドルと前営業日NY終値(1.2164ドル)と比べて0.0007ドル程度のユーロ高水準だった。ただ、NY市場に限れば方向感に乏しい展開だった。欧米株価の下落に伴うリスク・オフのドル買いが入った半面、この日発表の1月ユーロ圏PMI速報値が良好だったことが意識されてユーロ買い・ドル売りが入った。現物の米国株が下げ渋ったことも相場を下支えした。

ユーロ円は続伸。終値は126.33円と前営業日NY終値(125.93円)と比べて40銭程度のユーロ高水準。良好なユーロ圏経済指標を手掛かりに円売り・ユーロ買いが出たあとは、ドル円の上昇につれた買いが優勢となり一時126.40円と日通し高値を付けた。

ポンドドルは頭が重かった。欧州時間発表の英小売指標が予想を下回ったほか、英PMI速報値が低調な内容となったことから、全般ポンド売りが先行し、1.3636ドルと日通し安値を付けた。英国ではロックダウン(都市封鎖)が夏まで続くとの観測が浮上しており、新型コロナ感染拡大による景気への悪影響や収束後の景気回復のペースも懸念される。

ジョンソン英首相は、英国で広がっている新型コロナの変異種について「従来型よりも感染力が強いことに加えて、死亡率が高い可能性がある」との報告を受けた」と発表した。

【本日の東京為替見通し】FOMC(26-27日)控えて動意に乏しい展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、明日からの米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて動意に乏しい展開が予想される。

26-27日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、1月8日のクラリダFRB副議長、1月14日のパウエルFRB議長の講演で「経済状況は依然として目標からかけ離れている。目標が十分に達成されるまで、大規模な緩和スタンスを変更する理由はない。利上げや量的緩和の縮小については当面ない」と述べていることで、テーパリング(資産購入の段階的縮小)への言及はなく、現状の金融緩和策の維持が予想されている。すなわち、2023年までの実質のゼロ金利政策(FF金利誘導目標:0.00-0.25%)、期待形成を持たせるフォワード・ガイダンス、月額1200億ドルの資産購入を行うバランスシート・ガイダンスからなる現行の金融緩和策が維持される見通しとなっている。

さらに、先日の次期財務長官に指名されているイエレン第15代FRB議長の公聴会では、現状の低金利により財政発動が積極化できる、と表明されており、パウエル第16代FRB議長がFRB理事時代に一度も反対したことがない元上司であるイエレン第15代FRB議長が、持論である「高圧経済政策」による低金利政策の維持を要請したことになる。

リスクシナリオとしては、12月の非農業部門雇用者数が前月比でマイナスに落ち込んだことや、バイデン米大統領の追加経済対策案第1弾(約1.9兆ドル)による米10年債利回りの上昇を抑えるために資産購入額を増額することになる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、103.90-104.00円に断続的にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、104.20-30円にも断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、103.50円にドル買いオーダー、103.30円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

- 14:00 ◎ 12月シンガポール消費者物価指数（CPI、予想：前年比▲0.1%）
- 17:45 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 18:00 ◎ 1月独 Ifo 企業景況感指数（予想：91.4）
- 19:45 ◎ パネッタ ECB 専務理事、講演
- 22:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 23:45 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 26日 01:00 ◇ 12月ロシア鉱工業生産（予想：前年比▲3.0%）
- 26日 02:00 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 26日 03:00 ◎ 米財務省、2年債入札
- 世界経済フォーラム「ダボス・アジェンダ」（オンライン、29日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

22日 06:53 ミシェル欧州理事会常任議長(EU 大統領)
「EU 首脳はロックダウン措置強化が必要な可能性との認識で一致」

22日 11:24 中国外為当局
「現在の人民元相場は、妥当で均衡がとれた範囲」
「海外市場の変化が人民元をより変動させる」

22日 19:30 ドイツ政府
「2021年の国内総生産(GDP)成長率予測を3%へ引き下げ。従来は4.4%」

22日 23:06 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領
「民間企業や地方政府によるコロナワクチン購入を認める法令を発行するだろう」

23日 01:15 ギリシャ政府高官
「コロナ規制を緩和し、2月1日から高校を再開」

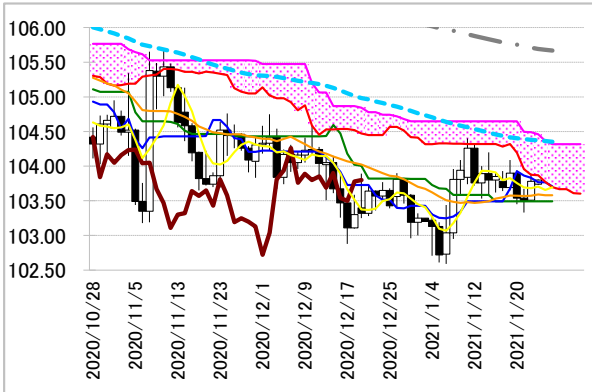
23日 02:13 エルドアン・トルコ大統領
「高金利のもとでトルコ経済が発展するとは思えない」
「高金利は絶対に反対」

23日 02:25 英政府のバランス首席科学顧問
「英国で確認されたコロナ変異種、陽性者のリスクが高まる可能性」
「英の変異種にはワクチンは効果的だろう」
「南アフリカとブラジルの変異種はワクチンの効果が低下する懸念」

23日 05:27 バイデン米大統領
「米国の新型コロナによる死者数は60万人を大きく上回る見通し」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

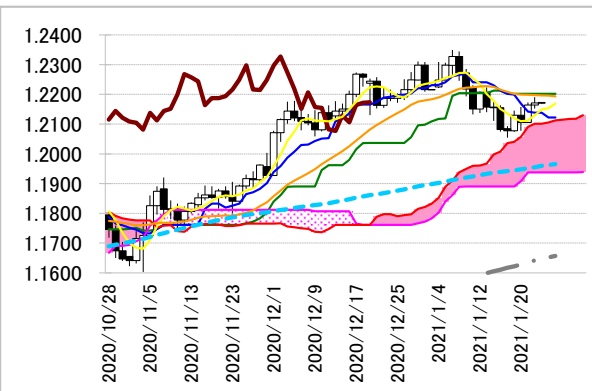


<ドル円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。三川明けの明星的なパターンで反発しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	104.46(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	103.78
サポート1	103.50(日足一目均衡表・基準線)
サポート2	102.59(1/6 安値)

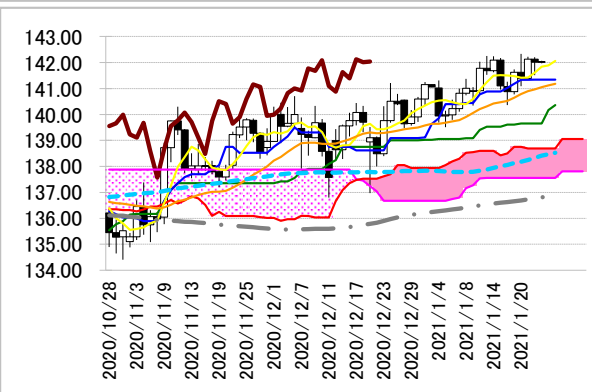


<ユーロドル＝雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、2手連続陽線で転換線を上回って引けており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.2202(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.2171
サポート1	1.2101(日足一目均衡表・雲の上限)

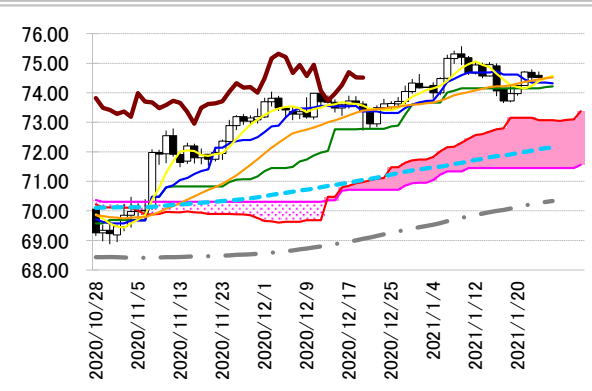


<ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。高値圏での孕み線でダブル・トップの可能性が示唆されているものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	142.55(2020/2/27 高値)
前日終値	142.01
サポート1	141.35(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。孕み線で反落しているものの、転換線を上回って引けていることで、反発の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.58(1/8 高値)
前日終値	74.53
サポート1	74.15(日足一目均衡表・基準線)

